2021年度 事業報告

社会福祉法人 横浜いのちの電話

横浜いのちの電話　　2021年度事業報告

目　次

ご挨拶	1
活動概要	2
電話相談活動	2
研　修	3
活動報告	3
相談員数と受信件数	5
電話受信状況	6
2021 年度　資金収支計算書	9
2021 年度　貸借対照表	9
2022 年度　事業計画	10
2022 年度　資金収支予算書	11
法人組織	12
感謝録（寄付報告）	13
事業支援委員会　感謝録	15
組織図	16

はじめに

2021（令和3）年度の事業活動と収支決算をここにご報告いたします。皆さまからのご支援、ご協力に、心から感謝いたします。これまで多くの方々にお支えいただき、活動を続けることができたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

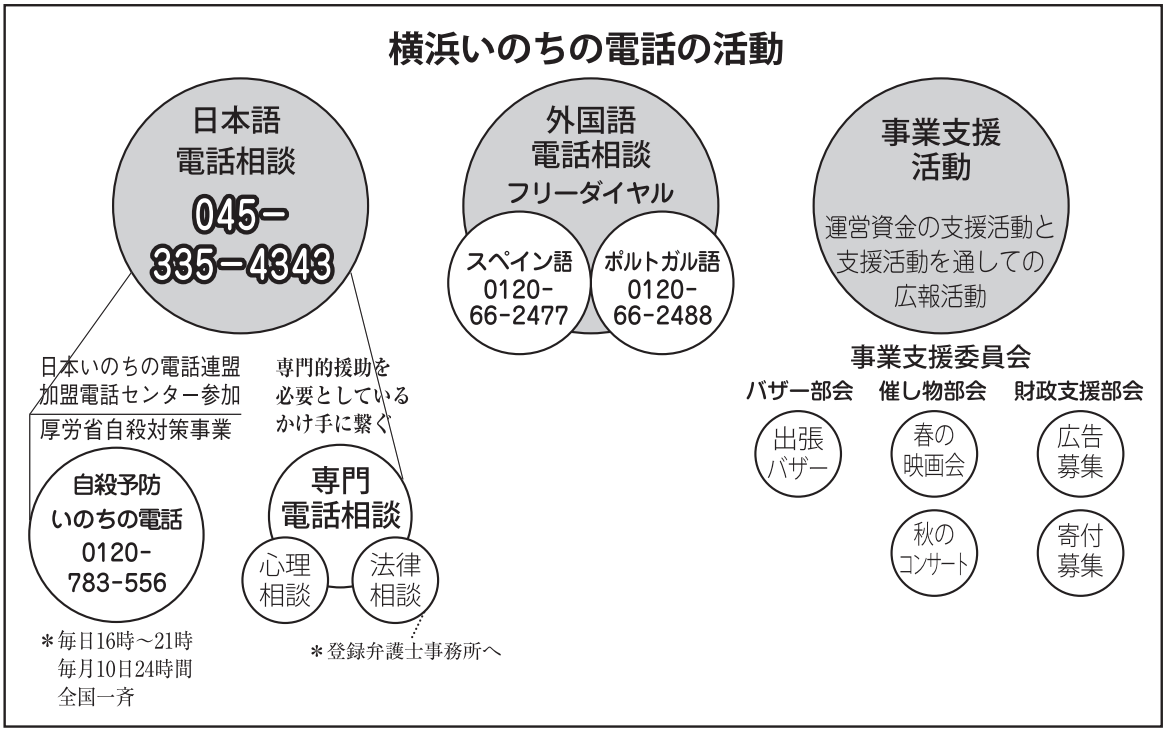
私ども横浜いのちの電話の日本語相談は、「いつでも、誰でも、どこからでも」という電話の即時性と匿名性を保持し、電話で寄り添うことを大切にしながら、認定されたボランティアにより年中無休24時間体制の自殺予防電話相談活動を行っております。また、中南米からの在日外国籍の方々のためのスペイン語、ポルトガル語による外国語相談も同じく認定されたボランティアにより週３日の活動を続けています。さらに心理や法律の電話による専門相談を行っています。

このような私たちの活動も、この２年間は新型コロナウィルス感染防止のため日本語電話相談、外国語電話相談、心理専門相談の一時休止や相談時間の短縮等により十分に行うことができない状態でした。その中でも2021年度は相談員の養成研修を行うことができ日本語、外国語の新たな相談員を迎えることができました。また秋のコンサートや春の映画会も感染予防に留意しながら開催し、多くの方々にお出でいただくことができました。私たちの活動の場も改修工事が行われ、一時期は別の場所で活動をしていましたが、この4月にきれいで快適になったセンターに戻り、新たな気持ちで相談活動に取り組むことができるようになりました。また2022年度の途中からは、念願であった24時間の相談を部分的に再開することができるようになりました。私たちの電話には、常に多くの方々からの電話がかかってきます。私たちを必要としてくださる方々の相談を少しでも多くお受けできるように、これからも努力していきたいと思っています。

今年度も社会福祉法人としての自覚と責任を担いながら、《いのちを大切にする》市民活動を続けてまいります。常に自殺予防としての電話相談の質を問い直し、「かながわ自殺対策会議」をはじめ県市の行政機関、関係諸団体と連携、協力しながら、生きる力を信じて支え、お一人おひとりの電話に寄り添う、柔軟な自殺予防活動に取り組んでいきたいと思います。

42年目の歩みを始めました。横浜いのちの電話がこれからもより良い相談ができるように、皆様方のご支援ご協力を心からお願い申し上げます。

2022年7月
社会福祉法人 横浜いのちの電話
理事長　松橋秀之



2021年度　事業報告

活動概要

コロナ感染拡大に伴い、日本語電話相談は2020年度に引き続き8時～22時で実施した。8月2日～9月30日まで緊急事態宣言が発令されたが、相談活動、スーパービジョン、及び専門相談は継続した。研修に関しては、地区別研修のみ中止した。

また、予定されていた一時移転を7月8日に実施した。その際、前日7日15時から8日22時まで相談活動を中止した。9日からは移転先で移転前と同様の体制で相談活動を継続した。

2020年度より日本いのちの電話連盟が実施している「毎日フリーダイヤル」（16時～21時）に、当センターも8月より、1日と20日、16時～19時で参加した。

電話相談活動

※統計数字は日本いのちの電話連盟にあわせて年（1月～12月）で集計しています。

日本語電話相談

1．一般電話相談　045-335-4343

（1）年中無休24時間体制を理念として電話相談活動を継続したが、コロナ禍により休止や時間を短縮しての活動を余儀なくされた。

（2）実働相談員159名（2020年168名）が原則として月2回の電話担当に入り、13,636件（2020年10,730件）の電話相談を受信した。

2．専門相談（心理･法律）

専門的援助を必要としているかけ手に対しては、一般相談から専門相談につなぎ対応した。

受信件数　心理専門相談　106件（2020年102件）　法律相談　20件（2020年18件）

3．フリーダイヤル「自殺予防　いのちの電話」　0120-783-556

（1）厚生労働省の自殺防止対策事業（自殺防止対策事業補助金交付）である「自殺予防いのちの電話」に引き続き参加し、毎月10日のフリーダイヤル（8時～22時）と、1日と20日の16時～19時に毎日フリーダイヤルで相談を受けた。

（2）県及び市町村に、ポスター、カード配布等の広報活動を行った。

（3）受信件数425件（2020年291件）　うち自殺に関する件数105件（2020年76件）.担当した延べ相談員数106名（2020年66 名）

外国語電話相談　LAL（Linea de Apoyo al Latino/Linha de Apoio aos Latinos）

一般電話の他にフリーダイヤル相談も実施している

（1）主に中南米からの外国籍県民を対象に母語（スペイン語・ポルトガル語）のメンタルヘルス相談を神奈川県と横浜市の援助により実施した。相談員の国籍は8ケ国で、担当した相談員数は45名（うち日本人10名）である（2020年は8ヶ国で、担当した相談員数は48人（うち日本人12名））。受信件数1,212件（2020年912件）。　スペイン語485件（2020年374件）、ポルトガル語727件（2020年538件）。

（2）開局（1993年9月1日）以来の受信件数は31,070件である。

研　　修

日本語電話相談

1．養成研修

（1）有名芸能人の自死が相次ぎ、その報道の際に相談窓口として「いのちの電話」が案内されたこともあってか、全国的に応募者が増加した。横浜も51名（2020年度19名）の応募があった。

（2）3月、「応募動機」「自分史」の応募書類の審査、グループ面接の結果、32名を選考。うち1名の辞退者あり。2020年度コロナウイルス感染拡大に伴い中止になり待機していた養成生8名と合わせ、2021年度養成研修は39名で前期研修に進むことになった。

（3）前期研修（4月～9月）としては人間関係基礎研修（合宿を含む）、ロールプレイ研修などを実施した。

（4）後期研修（10月～翌年2月）は、専門分野の講師による「いのちの電話の成り立ち」や「精神保健」、「相談対応」などについての講義を全10回実施した。また実習で電話インターン研修を実施した。

（5）前期研修、後期研修を通して、相談員としての適性を審査した結果、14名（2019年度7名）の方を認定し、3月26日（土）認定証を授与した。なお、応募から研修期間中に体調不良や家庭、仕事の事情により研修が継続困難となり、6名の方が辞退した。

2．継続研修

相談員は、認定された後も引き続き各種研修が義務付けられている。相談員として良き聴き手となるためには研修は必修である。一昨年度2020年度はコロナ禍により初任者研修、地区別グループ研修を6回休止せざるを得なかったが、昨年度2021年度は2回休止した。

（1）初任者研修
認定された直後の相談員を対象に、1年間、月1回の研修が義務つけられている。
2020年度は、実施できなかった月もあり、2021年度に持ち越して、10月まで研修。11月から各グループへ配属された。
（2）地区別グループ研修
相談員は14の地区別グループのいずれかに所属することとしており、毎月1回、研修を実施した。グループは良き聴き手となるための学びを深めると共に、相談員の支えあいの場となっている。
（3）全体研修
相談員が幅広い知識を習得することで、より良い相談活動が出来るように、毎年、講義内容を精査し研修を企画している。2021年度はコロナ禍ということで「ウイリング横浜」（上大岡）において、下記の通り1回実施した。
第1回「ムズカシイ電話相談をどう受ける」　6月26日（土）14：00～16：00（64名参加）
講師　有田モト子氏　横浜いのちの電話スーパーバイザー
（4）継続スーパービジョン
電話相談を熟知した6名のスーパーバイザーによるスーパービジョン（2時間）を、109名に対して実施した。
（2020年度は8月～3月間98名に実施）

3．研修担当者

（1）研修委員会
相談員養成研修、相談員継続研修など研修全般にかかわる内容について、企画、提案、課題対応を行うために6回開催した。
（2）研修担当者養成研修
2021年度は実施しなかった。3月に2022年度向け3名の面接を実施。1名から辞退の申し入れがあり、2名が担当者養成研修に進むことになった。

外国語電話相談

1．養成研修

（1）相談員養成研修はスペイン語・ポルトガル語ともに6月から12月まで24回の講義（理論・ロールプレイ）、1月から3月まで電話インターン研修を実施した。
（2）研修参加人数は6名（ポルトガル語3名+スペイン語3名）, そのうちスペイン語2名が認定された。
国籍は日本2名である。

2．継続研修

相談員継続研修では、相談員が組織の一員として活動していることへの理解を深めることを目的に、心理学のテーマに基づき、対応の難しい相談の事例検証や、対応のテクニックや心構えを振返るスーパービジョンを行いながら、相談対応の改善を図った。継続研修は計4回及び相談員内勉強会を2回実施した。その他研修担当による個人またはグループでのスーパービジョンを年2回（8月及び3月）、計46名に実施した。

活動報告

対外活動

（1）日本いのちの電話連盟社員総会を6月25日（金）、事務局長会議を6月26日（土）にオンラインで実施し、事務局長が出席した。またオンラインで3月5日（土）に開催した関東ブロック会議に理事長と事務局長が出席した。
（2）官民共催の「AIDS文化フォーラムin横浜」の委員として、理事長が第1回組織委員会（4月12日）出席した。
（3）神奈川県被害者支援連絡会定期総会（6月書面開催）に理事長が会員として出席した。
（4）「かながわ自殺対策会議」（7月、3月書面開催）に理事長が委員として出席した。
（5）秦野市自殺対策協議会（10月28日）に事務局長が委員として出席した。
（6）相模原市自殺対策協議会（1月書面開催）に研修委員長が委員として出席した。
（7）湯河原町自殺対策推進協議会（2月書面開催）に事務局長が委員として出席した。
（8）川崎いのちの電話事務局と情報交換を行った。
（9）毎年9月10日に実施している、JR東日本・川崎いのちの電話と共催で横浜駅での「自殺予防いのちの電話」のPRチラシの配布（連盟主催）、及びかながわ自殺対策会議のメンバーとしてJR横浜駅及び淵野辺駅構内で自殺防止啓発のチラシの配布は実施されなかった。

LAL関連の対外活動

（1）8月23日~26日の4日間、ブラジルで行われた「第11回自殺予防国際シンポジウム」にポルトガル語相談員数名がオンラインで参加した。
（2）10月24日にNHK第2放送及びNHK WORLD-JAPAN(ラジオ)の「Living in Japan」の番組にLALコーディネーターがLALの活動についてインタビューを受けた内容が放送された。
（3）12月10日、東邦大学医学部精神神経医学部の主催により、群馬県太田市の日伯学園にて在日ラテンアメリカ人の生徒たちを対象に、メンタルヘルスに問題を抱えている実態を把握するための調査に参加した。資料の翻訳や説明会での通訳などで協力を行った。
（4）3月8日、在日スペイン大使館をLALコーディネーターが訪問し、LAL活動の紹介及び「在日スペイン人の女性のDV被害の取り組みについて」協力をお願いした。

（5）3月23日、在東京ブラジル総領事館をLALコーディネーターが訪問し、新ブラジル総領事Guilherme Patriota氏へLALの活動について説明を行い、協力を得た。
（6）3月27日、三重県亀山市で行われた「東邦大学医学部精神神経医学部」がリードする「精神衛生心理相談会」にLALコーディネーターが通訳などで協力した。又、地域のラテンアメリカコミュニティーへLALの紹介を行った。

相談員委員会

1. 相談員委員会定例会

相談員委員会は、相談員の継続研修を行う各地区別グループから選出された相談員委員会委員、事務局長、研修委員会の委員で構成され、原則として毎月第1土曜日　13：30〜15：30　開催し次の活動を行った。(5月、8月、9月、1月は休会）

（1）相談活動における連絡・報告を通じて、相談員間の情報の共有を行った。
（2）相談員として必要な基本的な心構え及び組織の一員として活動することを適宜、再確認し合った。
（3）電話相談活動におけるいろいろな課題について話し合い、相談環境の向上を図った。
（4）日本いのちの電話連盟が実施している「毎日フリーダイヤル」（16時〜21時）への参加を検討し、当センターも8月より、1日と20日、16時〜19時で参加することになった。

2．研修・行事の担当

相談員は組織の構成員でもあるため、全体研修や新年会などの行事の準備・進行をそれぞれ地区別グループが担当することになっているが、2021年度は6月に開催された全体研修のみを担当した。

3．相談員のつどいの開催

毎年開催している「新年会」と「相談員のつどい」は実施出来なかった。

事業支援委員会

横浜いのちの電話の活動をより社会に広め、運営資金を得ることで事業を支援するために、次のような活動を実施し、法人会計へ150万円を繰り入れた。また、このような支援活動を通して、横浜いのちの電話の支援と協力をお願いする広報活動を行った。会員数約60名。

1. バザー部会

（1）コロナ禍のため会員の仕事会活動を月1〜2回に縮小し、バザー商品を製作した。
（2）出張バザーがコロナ禍のため開催されなかったが、相談員・支援会員が協力して商品を購入した。特にマスクとマスク入れが売れた。また3年ぶりに映画会が開催され、会場でバザーを開催することが出来、皆様に喜んでもらえた。

2. 催し物部会

（1）秋の催し　「半﨑美子　明日を拓くコンサート2021」
2021年10月22日（金）　18：30〜20：30 於：関内ホール
チケット売上397枚　　当日入場者371名（含招待者）
（2）春の映画会「カツベン！」
2022年3月10日（木）第1回目11：00〜13：07　第2回目14：30〜16：37　第3回目 18：30〜20：37
於：さくらプラザホール　　チケット売上451枚　当日入場者327名（含招待者）

3．財政支援部会

2020年3月より活動を休止していたが、2022年1月より再開し、3月の映画会で募金活動を実施した。

広報委員会

広報「横浜いのちの電話」　101号（5月）・102号（11月）を発行した。

事業報告書の発行　（7月）

「2020年度事業報告」を発行した。

ボランティア間の交流

横浜いのちの電話では、日本語相談・外国語相談・事業支援ボランティア・特別技能ボランティアが活動しており、単独または合同での場を設け、相互の交流を深めている。

2020年度は、外国語電話相談員の交流会及びクリスマス会をオンラインで実施したが、2021年度は全ての交流会を中止した。

（1）外国語電話相談員交流会　　中止
（2）外国語電話相談員クリスマス会　　中止
（3）新年会　　中止
（4）日本語電話相談員の集い　　中止

募金活動

横浜いのちの電話の活動のために多くの維持会員・賛助会員から寄付をいただいた。
寄付金収入合計　12,331,726円　（2020年度9,058,237円）
維持会費　395件（個人363件 団体 8件 法人24件）2,402,000円（2020年度 2,416,500円）
一般寄付　504件（個人408件 団体44件 法人52件）9,929,726円（2020年度 6,641,737円）

神奈川県地域自殺対策強化交付金事業

神奈川県より200万円の神奈川県地域自殺対策強化交付金事業補助金の交付を受け、主に相談員の研修にあて、相談対応の質の向上及び改善につなげる等、自殺防止対策のために使用した。

しかし、コロナ禍により活動休止中の相談員がおり研修が計画通りに実施出来ず、最終的に185万1千円の交付となった。

相談員数と受信件数

相談員数

日本語相談		193 名
専門相談	心理相談	16 名
	法　　律	4 名
外国語相談		45 名

受信件数

日本語相談	実相談数	13,636 件
	（うち自殺志向）	1,076 件
	（うち自殺予防フリーダイヤル）	425 件
専門相談	心理相談	106 件
	法　　律	20 件
外国語相談	スペイン語	485 件
	ポルトガル語	727 件

受信状況の推移

年度		日本語（件）	外国語（件）
2010	4~3 月	22,067	1,429
2011	1~12 月	22,051	945
2012	1~12 月	21,526	950
2013	1~12 月	21,728	792
2014	1~12 月	21,509	1,126
2015	1~12 月	21,256	1,179
2016	1~12 月	21,306	1,306
2017	1~12 月	21,372	1,957
2018	1~12 月	21,369	1,652
2019	1~12 月	21,600	1,135
2020	1~12 月	10,730	912
2021	1~12 月	13,636	1,212

電話受信状況　相談データ

【電話相談の状況】

1. 日本語電話相談　年代別・男女別受信件数（図1，表1）

2021年の受信件数は、13.636件と前年の10.730件より微増となったが、コロナ禍の中、深夜の活動が再開できず、活動時間短縮の影響が現れている。コロナ禍による活動自粛の相談員もいるため、実働数も減少している。男女別では、女性（58.5%）がほぼ６割を占めている傾向は変わりがない。年代別では、男性は50代、60代、40代の順に多く、女性は前年と同じく60代が最多でそれに50代、40代となっている。匿名性を尊重しているため、年齢不明が４割超となっているが、年代がわかる受信件数7.701件のうち、10代以下（2.0%）、20代（5.3%）と若者からの相談件数は増加していない。一方で、40代（18.0%）、50代（26.7%）、60代（30.3%）の占める割合は高い。

2. 日本語電話相談　内容別受信件数（図2，表2）

内容別では、「精神」が最多（23.7%）で、人生（20.3%）、「家族（親族を含む）」（14.1%）、「身体」（8.8%）、「対人」（8.4%）の順となっている。それぞれの内容では、「精神」は病気に関するものが、「人生」では生き方、生きがいや孤独が多い。「家族（親族を含む）」では不満、介護、子育てに加えて虐待、近親姦も増えている。「対人」では、不和・トラブル、ハラスメント・いじめが多くなっている。年代別に見ると、30代から50代にかけては「精神」が最も多くなっているのに対し、10代以下は「家族」が多く、20代は「精神」「人生」「男女」「職業」と分散し、60代以上は「人生」が最も多くなっており、若年層と高齢層での違いが見受けられる。

3. 日本語電話相談　年代別受信件数と自殺志向率（図3，表3）

受信件数に対する自殺志向数は1,076件で、自殺志向率は7.9%で前年の9.5%より下がった。年代別では、50代、40代、30代の順で自殺志向件数の割合が高くなっている。一方、自殺志向率では、30代、40代、20代の順で高くなっており、10代も10%を超えている。男女別では、男性のほうが自殺志向率はわずかに高くなっているが、年代別にみると男性が40代、30代、70代以上が高いのに対し、女性は10代が最も高く、次いで20代、30代となっており、男女差が見受けられる。

4. 日本語電話相談　内容別受信件数自殺志向率（図4，表4）

内容別の自殺志向件数は、「精神」、「人生」、「家族」の順で高くなっている。また自殺志向率は、経済（12.7%）精神（11.7%）思想・人権（11.0%）の順となっており、受信件数としては少ない「経済」「思想・人権」の自殺志向率が高くなっている。自殺志向のほとんどは自殺念慮であるが、より危険度の高い「予告・通知」の30件中「人生」が11件、「精神」が7件となっている。また、「実行中」の1件は「人生」となっており、これら項目は、危険度が高いものが多く含まれているといえる。

5. 日本語電話相談　フリーダイヤル（図5，表5）

毎月10日と毎日16時～19時のフリーダイヤルで全国のセンターとオンラインでつなぎ、日本全国からの電話を受けている。女性からの相談件数がやや多いのは、全国の状況と合致している。また、自殺志向率は通常ダイヤルと比べ高くなっている。女性の通常電話自殺志向率は7.2%だが、フリーダイヤル自殺志向率は27.1%となっている。内容別でも受信件数は通常電話と同様の傾向であるが、自殺志向率では通常電話が「思想・人権」、「精神」、「経済」の順であるのに対し、フリーダイヤルでは「経済」、「人生」、「職業」の順となるなど違いが見受けられる。

6. 心理専門電話相談（図6，表6）

2021年の相談件数は前年とほぼ同じで、女性も男性もそれぞれ特定２名の方からの相談が多く、頻回の方は相談内容が深刻なのが特徴である。一般電話から紹介された方をなるべく早く心理専門相談に繋ぐことが大切に思われる。「精神」の主な内容で「病気悪化・体調」が急増したことが心配される。

7. 法律専門電話相談（図7，表7）

相談件数は例年の半数だった昨年より２件増加した。女性からの相談が大半を占めている。内容別で最も多い相談は「離婚」で、「相続・贈与」「金銭貸借」等お金の問題に関する相談も多い。

8. 外国語電話相談（図8，表8）

受信件数は前年に比べておよそ30%増えた。相談内容別では「人生」、「精神・保健」、「家族」、「対人」などとなっている。「人生」では主に孤独、将来に対しての不安に関する内容が最も際立っていた。「家族」では、母国の家族とのつながりが薄れたり、DV被害、「対人」では、職場でいじめを受けたり、言葉の壁によって、うまくコミュニケーションが取れないなどのトラブルだった。最近、在日ラテン系コミュニティーの中で高齢化が進み、体の不調、年齢による失業（再就職が厳しい）などの問題も増加している。

日本語電話相談 年代別・男女別受信件数

図1

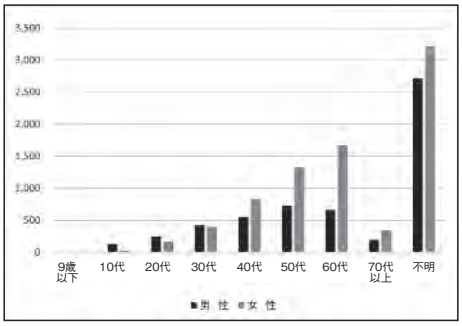


表1

年代別	男性		女性		合計	
	2021年	2020年	2021年	2020年	2021年	2020年
9歳以下	1	2	0	0	1	2
10代	130	105	32	22	162	127
20代	247	228	164	149	411	377
30代	423	334	396	346	819	680
40代	551	564	833	805	1,384	1,369
50代	731	568	1,326	1,013	2,057	1,581
60代	661	611	1,670	1,422	2,331	2,033
70代以上	194	123	342	234	536	357
不明	2,721	1,854	3,214	2,350	5,935	4,204
合計	5,659	4,389	7,977	6,341	13,636	10,730

日本語電話相談 内容別受信件数

図2

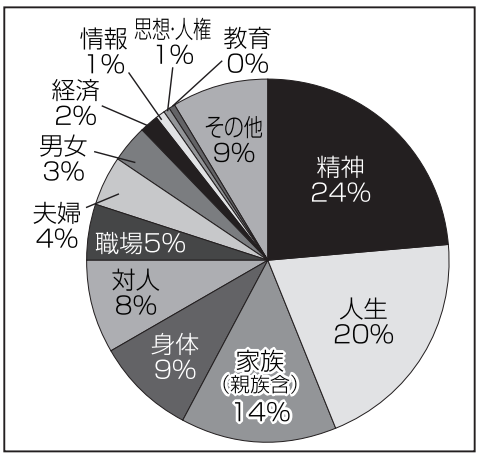


表2

	2021年	2020年	割合
精神	3,229	2,580	23.7%
人生	2,764	2,168	20.3%
家族(親族含む)	1,927	1,627	14.1%
身体	1,204	812	8.8%
対人	1,147	1,034	8.4%
職業	670	515	4.9%
夫婦	607	449	4.5%
男女	459	425	3.4%
経済	204	155	1.5%
情報	126	104	0.9%
思想・人権	91	51	0.7%
教育	49	43	0.4%
その他	1,159	769	8.5%
合計	13,636	10,730	100.0%

日本語電話相談 年代別受信件数と自殺志向率

図3

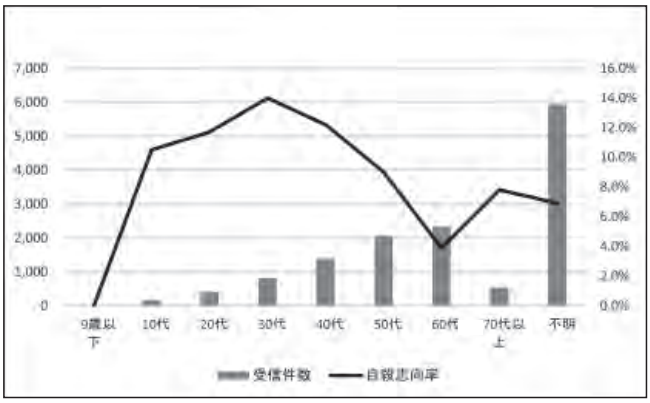


表3

年代別	受信件数	自殺志向件数	自殺志向率
9歳以下	1	0	0.0%
10代	162	17	10.5%
20代	411	48	11.7%
30代	819	115	14.0%
40代	1,384	169	12.2%
50代	2,057	185	9.0%
60代	2,331	91	3.9%
70代以上	536	42	7.8%
不明	5,935	409	6.9%
計	13,636	1,076	7.9%

日本語電話相談 内容別受信件数と自殺志向率

図4

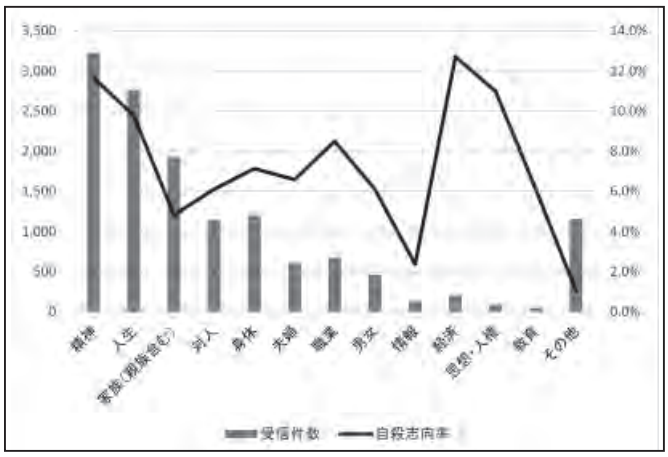


表4

内容別	受信件数	自殺志向数	自殺志向率
精神	3,229	377	11.7%
人生	2,764	271	9.8%
家族(親族含む)	1,927	93	4.8%
対人	1,147	70	6.1%
身体	1,204	86	7.1%
夫婦	607	40	6.6%
職業	670	57	8.5%
男女	459	28	6.1%
情報	126	3	2.4%
経済	204	26	12.7%
思想・人権	91	10	11.0%
教育	49	3	6.1%
その他	1,159	12	1.0%
合計	13,636	1,076	7.9%

日本語電話相談フリーダイヤル

図5

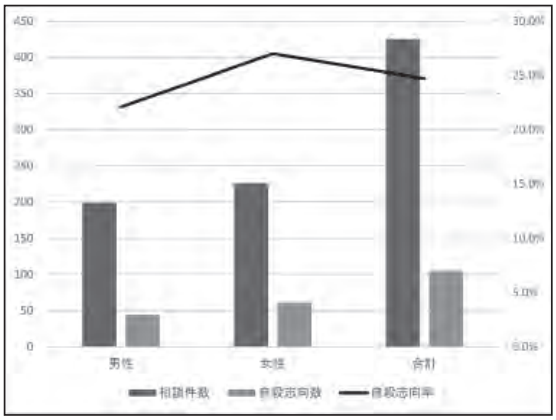


表5

	男性	女性	合計
相談件数	199	226	425
自殺志向数	44	61	105
自殺志向率	22.1%	27.0%	24.7%
平均通話時間	19.0分	24.9分	21.8分

心理専門電話相談・内容別受信件数

図6

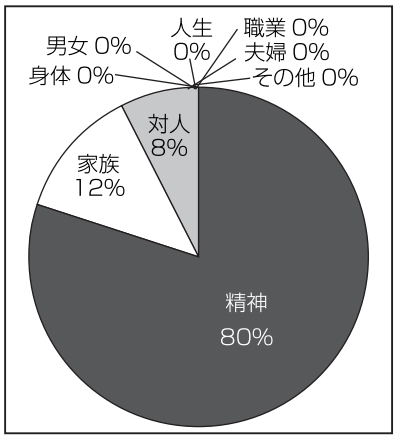


表6

項　目	受信件数	割合
精神	85	80.2%
家族	13	12.3%
対人	8	7.5%
身体	0	0.0%
男女	0	0.0%
人生	0	0.0%
職業	0	0.0%
夫婦	0	0.0%
その他	0	0.0%
合計	106	100.0%

「精神」(85件)の主な内容

生き方不安・孤独	25件
病気悪化・体調	21件
対人関係	24件
職業	5件
家族との問題	6件
自殺願望	4件

法律専門電話相談・内容別受信件数

図7

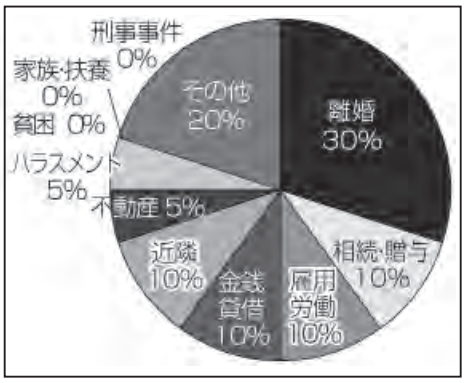


表7

項目	合　計	割合
離婚	6	30.0%
相続・贈与	2	10.0%
雇用・労働	2	10.0%
金銭貸借	2	10.0%
近隣	2	10.0%
不動産	1	5.0%
ハラスメント	1	5.0%
貧困	0	0.0%
家族・扶養	0	0.0%
刑事事件	0	0.0%
その他	4	20.0%
合　計	20	100.0%

外国語電話相談・内容別受信件数

図8

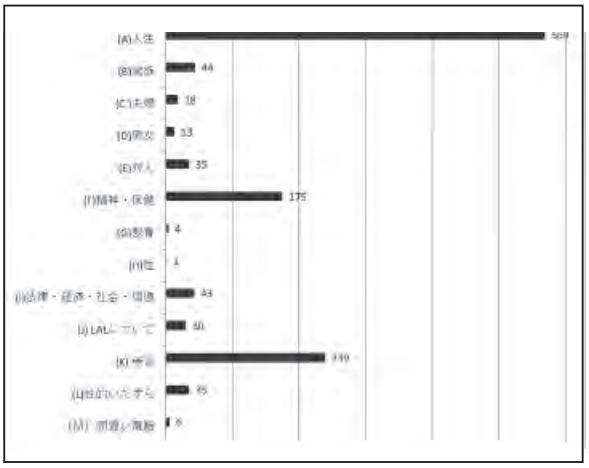


表8

	[illegible]	[illegible]	合　計
(A)人生	194	375	569
(B)家族	26	18	44
(C)夫婦	3	15	18
(D)男女	4	9	13
(E)対人	17	18	35
(F)精神・保健	32	143	175
(G)教育	1	3	4
(H)性	0	1	1
(I)法律・経済・社会・環境	23	20	43
(J)LALについて	23	7	30
(K)無言	135	104	239
(L)性的いたずら	24	11	35
(M)間違い電話	3	3	6
総件数	485	727	1212

2021年度　決算報告

資金収支計算書

(自)2021年4月1日　(至)2022年3月31日　　(単位：円)

勘定科目			予算	決算	差異
事業活動による収支	収入	事業支援委員会収入	2,670,000	2,817,665	△ 147,665
		寄付金収入	12,000,000	12,331,726	△ 331,726
		経常経費補助金収入	8,000,000	7,851,000	149,000
		研修事業収入	2,810,950	2,790,950	20,000
		共同募金配分金収入	250,000	250,000	0
		連盟助成金	2,500,000	314,300	2,185,700
		雑収入	0	28,540	△ 28,540
		受取利息配当金収入	8,600	10,902	△ 2,302
		事業活動収入計(1)	28,239,550	26,395,083	1,844,467
	支出	人件費支出	9,340,200	9,238,421	101,779
		事業費支出	10,980,000	10,633,826	346,174
		事務費支出	3,226,000	2,421,185	804,815
		事業活動支出計(2)	23,546,200	22,293,432	1,252,768
		事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	4,693,350	4,101,651	591,699
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	0	2,185,700	△ 2,185,700
		施設整備等収入計(4)	0	2,185,700	△ 2,185,700
	支出	固定資産取得支出	2,185,700	2,185,700	0
		施設整備等支出計(5)	2,185,700	2,185,700	0
		施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△ 2,185,700	0	△ 2,185,700
その他の活動による収支	収入				0
		その他の活動収入計(7)	0	0	0
	支出	積立資産支出	2,500,000	2,500,000	0
		その他の活動支出計(8)	2,500,000	2,500,000	0
		その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△ 2,500,000	△ 2,500,000	0
予備費支出(10)			0	0	0
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)			7,650	1,601,651	△ 1,594,001
前期末支払資金残高(12)			16,847,586	16,847,586	0
当期末支払資金残高(11)+(12)			16,855,236	18,449,237	△ 1,594,001

貸借対照表

2022年3月31日現在　　(単位：円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産	18,829,323	流動負債	380,086
現金預金	16,555,823	預り金	40,086
未収補助金	1,851,000	前受金	340,000
前払金	422,500		
固定資産	134,142,346	負債の部合計	380,086
基本財産	100,000,000	純資産の部	
定期預金	100,000,000	基本金	100,000,000
その他の固定資産	34,142,346	第1号基本金	100,000,000
器具及び備品	512,188	国庫補助金等特別積立金	1,994,165
電話債券	990,644	その他の積立金	31,214,180
ソフトウェア	1,525,334	相談事業費積立金	27,582,780
相談事業費積立資産	27,582,780	国際交流積立金	3,000,000
国際交流積立資産	3,000,000	ブラジルファンド積立金	631,400
ブラジルファンド積立資産	631,400		
		次期繰越活動増減差額	19,383,238
		(うち当期活動増減差額)	4,022,849
		純資産の部合計	152,591,583
資産の部合計	152,971,669	負債及び純資産の部合計	152,971,669

監査報告書

社会福祉法人横浜いのちの電話における2021年度の貸借対照表ならびに収支計算書、財産目録などについて監査を実施したところ、事業の運営及び会計上、健全で、かつ公正に処理されているものと認めましたので報告します。

2022年5月11日

監事　野沢　豊㊞

監事　目黒　裕㊞

2022年度事業計画

社会福祉法人横浜いのちの電話は、2022年度も「いつでも、だれでも、どこからでも」の原点に立ち、ボランティアによる自殺予防を中心とした眠らぬ電話相談活動を継続していきます。いのちを大切にする市民（ボランティア）運動として、その輪を広げていきます。2021年度もコロナ禍により、計画の変更を余儀なくされ、まだ収束の見通しが立っていませんが、コロナ禍への対応をしながら、横浜いのちの電話基本理念にもとづき、次のとおり、実施します。

Ⅰ．電話相談事業《電話の即時性をもって匿名を確保し、寄り添う》

1. 2020年度からはコロナ禍によりそれまでの24時間活動を8時～22時までの活動にならざるをえなかったが、基本は24時間、年中無休の日本語相談活動を継続する。深夜帯の相談活動の再開を引続き検討し漸次実施する。
2. 日本語電話相談のうち、専門的援助を必要とするかけ手を対象に、専門相談（心理・法律）を継続する。
3. スペイン語、ポルトガル語を母国語とするかけ手を対象に外国語電話相談活動（スペイン語・ポルトガル語）を継続する。

Ⅱ．電話相談員の養成とスキル向上《ひとりの人間としての成長を図る》

1. 電話相談員を育成するために電話相談員養成研修（1年間）を実施し、適性者を認定する。
2. 電話相談員のスキルの向上の研修を実施する。
（1）日本語相談
①専門家による個人スーパービジョン（全員年1回必修）
②地区別グループ研修
③全体研修
（2）外国語相談
①専門家による講座（年5回程度）
②個人スーパービジョン（全員年1回以上必修）
3. 研修担当者養成研修を実施し、研修担当者を育成する。
4. 相談員が活動しやすくなるよう相談環境の改善に努める。

Ⅲ．ボランティアの募集《自発的に参加するボランティアによって支えられている》

1. 日本語電話相談員、外国語電話相談員及び事業支援ボランティアを積極的に募集する。
2. 日本語電話相談については24時間体制を維持するために、また外国語相談の継続のために、マスメディア、各自治体及び他機関の協力を得る。

Ⅳ．個人・法人の自覚と責任を持ち、運動体として活動する

1. 広報活動
（1）広報誌「横浜いのちの電話」を発行する（5月・11月）。
（2）「事業報告書」を作成し、発行する（7月）。
（3）ホームページを常に更新し、充実させる。
（4）パンフレット、カード等の配布資料を作成し、有効に活用する。
（5）外国語電話相談を必要とする人たちへの広報活動及び支援者の輪を広げる。
①各種雑誌への掲載や、ホームページを用いて広報活動を積極的に行う。
②国際交流協会、各国大使館・領事館及び外国人援助団体などとの連携を深める。
2. 事業支援者の確保と拡大
（1）事業支援委員会のもとに設置した財政支援部会を基軸に積極的に募金活動及び企業団体への働きかけを推進する。
（2）維持会員・賛助会員の継続及び新規会員の加入に努める。
（3）法人・団体の維持会員の新規加入に努める。
（4）寄附金の拡大を図るため、寄附者に対する税額控除制度（国・県・市）対象法人としてのメリットを継続的にPRし、認可団体としての継続・維持に努める。
（5）ライオンズクラブ、ロータリークラブ、及び諸団体との連携を深め、協力を依頼する。
3. 事業支援委員会活動として、コンサート及び映画会を実施する。またバザー部会では手作り作品の販売に努める。
4. 社会福法人制度改革に伴う法人としての体制確立と適正運営の維持・強化。

Ⅴ．県・市等行政及び他機関との連携《社会との協働》

1. 日本いのちの電話連盟及び加盟電話センターと連携、協力する。
（1）2022年度厚生労働省補助事業による自殺予防活動の一環として、毎月10日に実施される連盟主催の自殺予防フリーダイヤルへ継続参加する。
2020年度コロナ禍対応として開始されている毎日フリーダイヤルに2021年度より月2日参加しているが、更なる参加日数増を検討する。また、ナビダイヤル導入の再検討を行う。

（2）研修、広報活動など加盟電話センターと連携、協力をする。
2. 毎年9月10日の「世界自殺予防デー」に合わせ、神奈川県と横浜市の自殺対策街頭キャンペーン及びＪＲ東日本と「自殺予防いのちの電話」フリーダイヤルの駅頭告知活動をそれぞれ横浜駅等にてカード配布のＰＲ活動を実施する。
3. 神奈川県下の川崎いのちの電話と連携を深める。
4. かながわ自殺対策会議、よこはま自殺対策ネットワーク協議会、相模原市自殺対策協議会、秦野市自殺対策推進委員会、湯河原町自殺対策推進協議会のメンバー、として、神奈川県・横浜市・相模原市・他の市町村及び関連機関との連携を深め、自殺防止活動に参画し、寄与する。
5. エイズ文化フォーラムｉｎよこはまに組織委員として参加する。
6. 外国語電話相談について、
（1）リニューアルを行ったホームページにより一層の周知を図る。
（2）南米出身者のコミュニテイーや職業紹介機関を通じてPRの促進を図る。

資金収支予算書

自：２０２２年４月１日　至：２０２３年３月３１日

（単位：円）

勘定科目			予算
事業活動による収支	収入	事業支援委員会収入	3,190,000
		寄付金収入	6,760,000
		経常経費補助金収入	8,000,000
		研修事業費収入	1,438,000
		共同募金配分金収入	810,000
		雑収入	0
		受取利息配当金収入	5,000
		事業活動収入計(1)	20,203,000
	支出	人件費支出	9,340,200
		事業費支出	9,799,700
		事務費支出	3,511,000
		事業活動支出計(2)	22,650,900
	事業活動資金収支差額(3)=(1)−(2)		△ 2,447,900
施設整備等による収支	収入	施設整備等収入計(4)	0
	支出	固定資産取得支出	740,000
		施設整備等支出計(5)	740,000
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)−(5)		△ 740,000
その他の活動による収支	収入	その他の積立金取崩収入	3,300,000
		その他の活動による収入計(7)	3,300,000
	支出	その他の活動支出計(8)	0
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)−(8)		3,300,000
予備費支出(10)			0
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)−(10)			112,100

前期末支払資金残高(12)	16,855,236
当期末支払資金残高(11)+(12)	16,967,336

法人組織

法人役員（2022年7月1日現在）

理事長	松橋　秀之	社会福祉法人のぞみの家理事長
理　事	甲斐田博高	横浜いのちの電話相談員委員会委員長
	笠井　政記	横浜いのちの電話 事業支援委員会委員長
	十川いづみ	横浜いのちの電話 研修委員会委員長
	田口　　努	公益財団法人日本ＹＭＣＡ同盟 総主事
	千木良　正	小長井・千木良・渡邊法律事務所 弁護士
	坪内　大輔	横浜いのちの電話 広報委員会委員長
	西﨑　猛之	社会福祉法人鎌倉静養館理事長
	藤井ルッチ	横浜いのちの電話外国語相談総会議長・コーディネーター
監　事	野沢　　豊	元　日本埠頭倉庫株式会社　常勤監査役
	目黒　　裕	社会福祉法人大和しらかし会大和市障害福祉センター松風園統括園長
評議員	石黒　敬史	社会福祉法人興寿会理事長
	井上　　力	保土ヶ谷区民生委員児童委員協議会 会長
	栗山　　仁	神奈川県中央児童相談所 所長
	新堀由美子	男女共同参画センター横浜南館長
	竹内　直樹	医療法人横浜いずみ会開花館クリニック 副院長
	永井　　撤	東京都立大学 特任教授
	濱田　壮久	カトリック末吉町教会 主任司祭
	平野　孝夫	株式会社オリマツ代表取締役社長
	政岡　弘道	宗教法人眞光寺代表役員（住職）
	山田　正夫	神奈川県精神保健福祉センター 所長

法人会議

理事会　第1回　2021年　5月19日
第2回　2021年　6月21日
第3回　2021年　10月19日
第4回　2022年　1月26日
第5回　2022年　3月23日

評議員会　定 時　2021年　6月10日

苦情解決制度についてのお知らせ

社会福祉法人横浜いのちの電話が提供するサービスに関わる
苦情に適切に対応するため、苦情解決の仕組みを整えています。

苦情の受付　横浜いのちの電話事務局

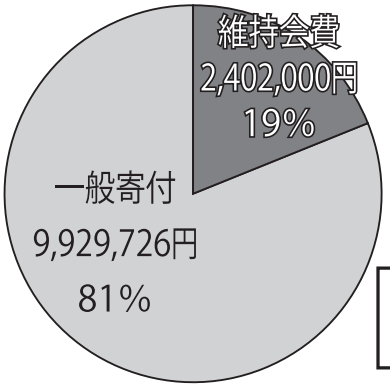
第三者委員　小川　恒子（心理専門相談）
植田　　薫（弁護士）
岩本　弥生（外国語相談）
永井　　撤（評議員）
松原　康雄（学識経験者）

2021年度感謝報告

日頃より横浜いのちの電話の活動にご理解とご協力を賜り心から感謝申し上げます。
横浜いのちの電話は多くの方々や団体、法人のみなさまからの温かいお気持ちに支えられ今年度も活動を続けることが出来ました。ありがとうございました。皆様から頂いたご寄付は、これからも大切に使わせていただきます。

ご寄付を頂きました方々のご芳名を掲載させていただきます。なお、ご芳名につきましては、万全の注意を払ってはおりますが、万が一にも記載漏れや誤字脱字がございましたら、恐れ入りますが事務局までご一報いただければ幸いです。また、個人情報保護上、掲載を希望されない方のお名前は掲載いたしておりません。今後も掲載を希望されない方はお知らせ下さい。敬称は省略させていただきます。

一般寄付　504件
個人　408件
団体　44件
法人　52件



維持会費　395件
個人　363件
団体　8件
法人　24件

寄附金収入合計
12,331,726円

◎維持会費（個人）

◆ア
阿久津久枝
◆イ
石井　保弘
板坂　光明
井上美佐子
岩本　満
梅田　淳子
大久保洋子
大貫まち子
岡本　恵子
越智　雪江
樫村かおり
加藤　葉子
上村千代子
北　孝史
木本美枝子
桒原　曠子
児玉　王子
小山　かよ
斉藤みどり
佐藤よし子
島田　裕子
庄子　徳義
◆セ
外田　博子
高橋　章
滝沢　潔
谷　隆英
長南　康子
徳永　敬子
中島　博明
中野　竜子
新村　寛子
野田　政則
花立　悦治
◆ヒ
相沢　匡
天野　明子
飯塚由紀子
石川　章
市村　毅
猪俣　清子
◆ウ
◆エ
大久保芳子
大畑みどり
岡本　昂
小貫　洋子
片平光知子
門川　幸枝
加山　潤一
喜多村光江
清野　陽子
◆ケ
小林　絹代
小山　裕子
榊原　隆太
佐渡美佐子
島津　直美
白石　律子
関川　昌子
◆タ
高橋久仁江
竹内　直樹
種蔵　宜子
◆ツ
土志田康浩
長嶋　君江
中林　淳子
西﨑　猛之
野田　良信
花村　節子
日笠　宏
青木　英人
新井　裕子
家里　敦子
石川　叡子
糸魚川　順
今井　迪恵
植木あい子
江口チエ子
大須賀靖子
大平みちよ
岡本　連三
小畑　克
片山功仁慧
金子　ユミ
河田　慶子
木原　サエ
◆ク
毛塚　篤子
小林田鶴子
近藤　信二
坂齋三枝子
佐野　知子
志村　和子
白川　啓子
関根　恵子
平　ふじほ
髙橋　恵子
竹内　弥生
田原　景子
津田　道夫
冨田　修一
中島冨美子
中村　和彦
西谷　大介
野中多津子
馬場　泰子
東　大策
青木　佳子
荒川　節子
伊草　淳子
石川　充子
伊藤　君恵
岩澤　敏一
植木　向子
江口　洋子
太田　桂子
大久保規矩夫
小川　恒子
小幡　佳子
加藤　征三
金子佐智子
河内ゆう子
木原由紀子
草本　和子
◆コ
小林　信子
近藤　繁子
阪本　和子
佐藤　千早
下会所一恵
陳岡　啓子
関　ひさ
高島千恵子
高橋　恒子
田代　良一
田宮　繁子
綱島　和子
豊田　あや
長瀬　陽子
中谷　直美
◆ネ
野畑　勢津
原川　博光
樋口　純子
青田　雅子
有田モト子
池田　敦子
石津　彩子
伊藤　文子
岩下由紀子
植田　雅子
江間　敦子
大竹　朋子
大江　美香
小川由起子
小原　勉
加藤　浩子
金子　由紀
◆キ
君塚　展子
楠本　泰子
小出太美夫
小林　葉子
◆サ
坂本　良子
澤村　幸子
下村　厚子
◆ス
瀬田　義雄
高須　あい
高橋　ゆか
田中　巌
田村素恵子
◆テ
鳥海　薫
中　園子
那須　泰治
根崎　理香
野村　重子
原崎　郁夫
菱山　米子
青山しのぶ
有馬日出子
池田　淑美
石塚　博子
伊藤まさ子
岩橋　圭子
内田恵美子
海老原弘子
大塚由香里
岡田　信子
大川原勝子
◆カ
加藤　博子
加野　俊恵
紀井　悦子
木村　和子
工藤　幸子
湖上　尚子
小林　理枝
斎藤　悦子
桜本由実子
◆シ
下村　秀子
椙村　千津
芹澤由紀子
髙田　耕多
高橋由美子
田中三一子
田村　美子
手塚　正子
◆ナ
永田千鶴子
南宮　一子
◆ノ
◆ハ
原　寛子
飛弾野育子
明瀬カズミ
安蔵　富江
井下原百合子
石附　峰子
伊藤美華子
岩橋　史明
打田真理子
◆オ
大槻久美子
岡田　美佐
荻沼　敦子
柿沢　純江
加藤　文男
上川　定子
菊地　綾子
木村　弘子
黒部　一允
古賀　幹章
小松　智子
齋藤荘之助
佐藤　光江
茂田　悦子
庄司　恵子
鈴木江美子
◆ソ
高野　晴子
高橋　吉巳
谷川　雅恵
◆チ
◆ト
永井　嵜朗
仲手川徳幸
◆二
野沢　純子
橋口奈保子
治田　哲之
百武　紀子
秋山　英代
安藤実菜子
井坂　秀一
五十畑誠子
井上　順子
岩村　文子
内山　理恵
大久保俊夫
大友　順子
岡本　香苗
奥田　紀子
加行　尚
加藤眞知子
上地　操
菊地万里子
木村　雅恵
桑島たつ子
小菅　啓子
小森　詳宏
斎藤　たえ
佐藤有見子
篠崎　千波
東海林　崇
鈴木　リツ
十川いづみ
高橋知江子
滝口　久恵
谷沢　栄司
長　一男
東島　昌子
永井　撤
永野　肇
新見　泰代
野沢　豊
服部千枝子
Pubill Puig Xavier
平尾　良子

平根　寛　平城　波江　平嶋　丸美　平塚　幸子　平野　敦司　平野　孝夫　蛭田　典子　広越　昭紀
◆フ　深澤　祥江　福永　牧子　福本　秀子　福山　笑子　藤井　征子　藤田　妙子　藤田　久子
藤野　英明　藤吉　康司　藤井　明子　古川恵美子　古川　淳一　古谷　大輔　◆ホ　星野　敦子
堀田　礼子　本宿　怜子　◆マ　前田いづみ　増田　雅子　松石　裕子　松浦恵美子　松尾恵津子
松木　英雄　松下　寿子　松田　英幸　松橋　秀之　◆ミ　溝幡三紀子　三橋千代子　三橋　三恵
三橋満里子　南　慶子　峯岸　文子　簑島　典代　宮嶋　久枝　宮治　容子　宮田　和恵　宮本　佳奈
◆ム　向野　和雄　村木　順子　村木　正子　◆モ　持川　光代　森口　弥生　森　敬子
森田　茂實　森原　久子　森　優美　◆ヤ　柳下　修　八塚　住子　柳村　典子　山口　明子
山口いね子　山口　奈巳　山口由美子　山口　善弘　山崎　恵美子　山田千賀子　山田真由美　山田　理子
山田　洋子　山本　きく　山元　桂子　山本美枝子　◆ユ　結城由美子　弓削寿美子
◆ヨ　吉岡　喜子　吉住真理子　吉田佳南子　吉田よし子　吉野　典子　吉味　徳子　米田　和彦
◆ワ　若尾　正子　若林　園子　渡辺　詢子　渡辺はるみ　渡辺　静江

◎維持会費（法人）

安楽寺　(株)一幸堂　圓光院　京浜急行電鉄(株)　香象院　廣徳寺　光明院　国分寺
金蔵院　西善院　宗教法人真照寺　荘厳寺　相鉄ローゼン(株)　増徳院　(株)高島屋横浜店
(株)デザインコンビビア　東昌寺　東漸寺　(株)ネピロード　古河電池販売(株)　(株)マルヤホーム　(有)京横興発
(株)横浜銀行本店　(社)横浜市医師会

◎維持会費（団体）

ｶﾄﾘｯｸ国際協働会　神奈川県神社庁　神奈川県精神科病院協会　鎌倉恩寵教会　杉山神社幼稚園　蒔田教会　横浜菊名教会壮年会
ﾚﾃﾞﾝﾌﾟﾄﾘｽﾁﾝ修道院

◎一般寄付（個人）

◆ア　青木　英人　青山しのぶ　明瀬カズミ　秋山　英代　阿久津久枝　アライカズコ　新井　裕子
荒川　節子　有田モト子　有馬日出子　安藤　浩美　◆イ　飯塚由紀子　伊草　淳子　池田　敦子
井坂　秀一　石井　保弘　石川　充子　石塚　博子　石附　峰子　五十畑誠子　市村　毅　伊藤しげみ
伊藤まさ子　糸数冨美江　井上美佐子　岩崎美奈子　岩澤　敏一　岩下由紀子　岩橋　圭子　岩橋　史明
岩本　満　◆ウ　植木あい子　植田　茂子　打田真理子　内山　理恵　◆エ　江口　洋子
◆オ　大江　美香　大久保　明　大久保俊夫　大久保洋子　大須賀靖子　大槻久美子　大貫まち子
大畑みどり　大原英里子　大平みちよ　大輪　靖宏　岡田　信子　小川由起子　奥田　紀子　落越　道彦
尾中　孝子　小貫　洋子　小畑　克　小原　勉　◆カ　柿沢　純江　片柳　時枝　片山功仁慧
加藤　明美　加藤　征三　加藤　浩子　加藤眞知子　加藤　葉子　金子　由紀　加野　俊恵　上川　定子
上地　操　亀岡　大造　川﨑　智晴　◆キ　菊地　綾子　菊地　万里子　岸　厚子　木島さち子
貴志マルシア光子　喜多村光江　北村由紀子　木原由紀子　木村　和子　木村　雅恵　◆ク　工藤　幸子
工藤　譲　久保　言史　黒部　一允　◆コ　小出太美夫　香山　一江　小林　絹代　小林田鶴子
小林　信子　小林冨美子　小林　葉子　小松　智子　小森　詳宏　近藤　信二　◆サ　材木　明子
斎藤　悦子　齋藤荘之助　斎藤　たえ　佐伯　文子　坂齋三枝子　佐々木伊奈子　佐治恭仁子　指田　文夫
佐藤　見子　佐藤よし子　佐渡美佐子　佐野　知子　佐藤　千早　◆シ　茂田　悦子　重宗美智子
篠崎　千波　柴本　裕子　島田　裕子　島津　直美　下山　弘至　庄司　恵子　庄子　徳義　陳岡　啓子
神馬　純江　◆ス　椙村　千津　杉山　孝博　鈴木江美子　◆セ　瀬田　義雄
◆ソ　十川いづみ　◆タ　高石　順子　高島千恵子　高須　あい　高橋久仁江　髙橋　恵子
高橋　恒子　高橋　雄一　高橋　吉巳　高原　将光　滝口　久恵　滝沢　潔　竹野内恭子　舘　東子
田中　巌　田中三一子　田中　洋子　谷沢　栄司　◆チ　千々輪悦子　長南　康子
◆ツ　辻川　篤　つながる募金　坪内　重子　鶴田　京子　◆ト　東島　昌子　徳永恵美子
徳永　敬子　外村　敬子　富田　重次　冨田　修一　友田　秀子　鳥海　薫　◆ナ　永井　嵜朗
中尾久美子　中川　董子　中島冨美子　中須安見子　長瀬　陽子　中　園子　永田千鶴子　仲手川徳幸
中　典子　中野　竜子　中林　淳子　中村　和彦　◆ニ　西川　綾子　西﨑　猛之　西谷　大介
新堀由美子　丹羽　慧子　◆ノ　野沢　純子　野沢　豊　◆ハ　芳賀　宏江　橋口奈保子
花立　悦治　花村　節子　馬場　泰子　濱田　壮久　濱田　静子　原田　勝男　◆ヒ　日笠　宏
東　大策　樋口　純子　菱山　米子　平尾　良子　平賀　祥子　平野　敦司　平野　孝夫　平野　孝使
平本　淳一　平山奈都子　◆フ　深澤　聖子　深澤　祥江　福山　笑子　藤井　征子　藤吉　康司
藤井　明子　古川恵美子　古川　淳一　古谷　英之　◆ホ　募金袋　堀田　礼子
◆マ　前田いづみ　牧田きみ子　町田　浩　松浦恵美子　松木　英雄　松下　寿子　松田　英幸
松橋　秀之　松村　清司　松山　清子　◆ミ　水谷　透　三橋千代子　三橋　三恵　三橋満里子
三宅　玲子　宮嶋　久枝　宮治　容子　宮田　和恵　宗像　義次　村田　貴子　◆メ　目黒　裕
◆モ　持川　光代　森口　弥生　森　敬子　森　優美　◆ヤ　屋嘉部路代　矢口　祐一
矢谷安紀子　八塚　住子　山口　明子　山口いね子　山口　幸子　山口　善弘　山崎恵美子　山田　洋子
山本　きく　山元　桂子　◆ユ　結城由美子　湯本　真一　◆ヨ　横田カツ子　吉田よし子
吉味　徳子　米田　和彦　◆ワ　和賀　順子　渡辺　詢子　渡邉　信子　渡辺はるみ　渡部　好子

◎一般寄付（法人）

MKPｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ合同会社　MDRTソニー会　圓光院　(株)ｱｰﾊﾞﾝ企画開発　基督兄弟団横浜教会　汲沢電設(有)
けやきの森病院　香象院　廣徳寺　西善院　宗教法人真照寺　生命保険協会神奈川県協会　荘厳寺
学校法人捜真学院　増徳院　東漸寺　ハニーミルク(株)　(有)京横興発　(有)フットフィール　横浜YMCA福祉会　蓮花院

◎一般寄付（団体）

厚木幼稚園　霞ヶ丘教会　神奈川県神社庁　鎌倉雪ノ下教会　関東学院六浦中学高校　関東学院中学高校
鵠沼めぐみﾙｰﾃﾙ教会　国際ｿﾛﾌﾟﾁﾐｽﾄ横浜西　桜ヶ丘幼稚園　篠原教会　新横浜教会
捜真女学校同窓会・PTA研究会　茅ヶ崎恵泉教会　日本基督教団清水ヶ丘教会　日本ｷﾘｽﾄ教団逗子教会　日本基督教団田浦教会
日本基督教団横浜港南台教会　日本基督教団田園江田教会　日本ﾎｰﾘﾈｽ教団横浜教会　はなこみち　藤沢教会
藤沢北教会　藤沢北教会婦人会　藤沢カトリック教会　翠ケ丘教会　紅葉坂教会　湯河原町長　横須賀学院
横浜海岸教会　横浜指路教会　横浜磯子教会　横浜英和学院　学校法人横浜学院　横浜共立学園　横浜雙葉中学高校
横浜みなとみらいﾗｲｵﾝｽﾞｸﾗﾌﾞ　横浜南ﾛｰﾀﾘｰｸﾗﾌﾞ　ﾚﾃﾞﾝﾌﾟﾄﾘｽﾁﾝ修道院　六角橋教会

＜以上、敬称略＞

2021年度事業支援委員会　感謝録

社会福祉法人横浜いのちの電話の一組織として、バザー・コンサートなどの支援会活動を行いました。その収益を横浜いのちの電話の相談活動の運営資金として協力することができました。活動を支えてくださった多くの方々・団体に感謝いたします。

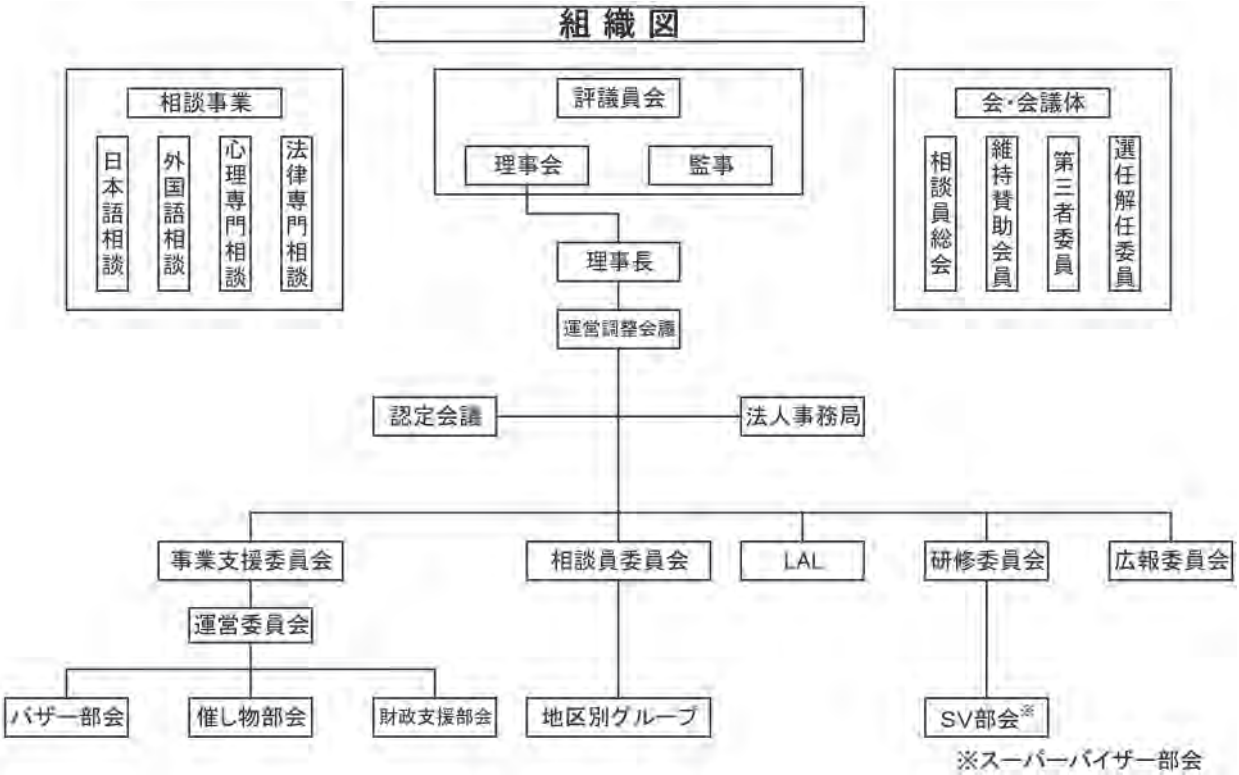
秋のコンサート　広告協賛企業

（株）有隣堂　（有）ヨネヤマプランテイション　（株）三彩社
横浜醤油（株）　（株）ガトーよこはま　（株）つま正
（株）オリマツ　社会福祉法人 鎌倉静養館　カサイ企画
戸越税理士法人　（株）白楽花園　（株）高千穂
（株）メリー　（有）光越商事

ご協力いただいたバザー会場

・ 3月10日 春の映画会会場（戸塚区民文化センター さくらプラザホール）

組織図


相談事業
日本語相談
外国語相談
心理専門相談
法律専門相談
評議員会
理事会
監事
会・会議体
相談員総会
維持賛助会員
第三者委員
選任解任委員
理事長
運営調整会議
認定会議
法人事務局
事業支援委員会
相談員委員会
LAL
研修委員会
広報委員会
運営委員会
バザー部会
催し物部会
財政支援部会
地区別グループ
SV部会※
※スーパーバイザー部会

支援会ボランティア・資金ボランティアで
ご協力いただけませんか。

お問合せ先　事務局　045-333-6163

支援会ボランティア

横浜いのちの電話の電話相談活動を資金面で支える、支援会ボランティアには、手作り品の製作に励むバザー部会と、映画やコンサートの企画立案をする催し物部会があります。両部会とも、仲間と楽しみながら自分のできることで社会貢献できるのが喜びになっています。

資金ボランティア（寄付のお願い）

眠らぬダイヤルとして２４時間体制で電話相談を続けていくためには、運営資金が必要です。維持会員または賛助会員になって資金面でのご協力をお願いします。皆様の温かいご支援をお待ちしています。ご寄付には税制上の優遇処置があります。

○維持会員（毎年一定額を援助して下さる方）

個人　年間１口　3,０００円　5,０００円　１０,０００円

法人　年間１口　１０,０００円　（何口でも可）

○賛助会員（随時、任意の額を援助して下さる方）

○振込先　郵便振替　００２４０－３－１５１９１

銀行振込　三井住友銀行　横浜駅前支店

普通口座番号　９３６７３６０

口座名　社会福祉法人横浜いのちの電話

※銀行振込の場合は、ご住所をお知らせください。領収書をお送りいたします。

遺贈について

ご遺産や相続された遺産を、横浜いのちの電話のために寄付したいとのお申し出が増えております。手続きなどのご相談は事務局までご連絡ください。なお、ご寄付に対しては相続税法上の優遇措置（寄付金控除）が受けられます。

＜表紙の絵について作者の言葉＞

ナツツバキ（ツバキ科）

初夏に純白の花を咲かせる清楚な佇まいは美しく一日花です。

ナツツバキは沙羅の樹とも呼ばれていますが、釈迦ゆかりの沙羅の樹はフタバガキ科、この樹とは別もので日本では育ちにくいです。が暑い季節に咲く清らかなナツツバキは今でも寺院に植えられているのをみかけます。花言葉は「愛らしさ」 受けた一本の電話、一期一会と思い、誠意をもって対応しようと思っています。（M. K）

いのちの電話は
いつもあなたのそばにいます
一人で悩まずにご相談ください
24時間・年中無休の眠らぬ電話です
名前をいう必要はありません
相談内容の秘密は必ず守ります

日本語電話相談

045－335－4343

外国語電話相談

0120－66－2477 スペイン語

0120－66－2488 ポルトガル語

横浜いのちの電話　2021年度事業報告

発行日　2022年7月
発行者　松橋秀之
発行所　社会福祉法人横浜いのちの電話

〒240-8691
日本郵便（株）保土ヶ谷郵便局私書箱32号
事 務 局　Tel 045-333-6163
fax 045-332-5673
http://www.yind.jp/

この報告書は神奈川県共同募金からの配分金で作成しました。